



KENMEI ACADEMY

# 2019年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価の結果の報告書
- II 小学校自己評価の結果の報告書
- III 中学高等学校自己評価の結果の報告書
- IV 高等学校通信制課程自己評価の結果の報告書
- V 学校関係者評価

学校法人 賢明学院

## 令和元年度(2019年度) 自己評価の結果について

学校法人賢明学院 賢明学院幼稚園

### 1, 本園の教育目標

—豊かな心、たくましく生きる人間性の基礎を育てる。—

カトリック精神に基づいた教育によって、神と人々の前で誠実に生き人間味豊かな人格を育てることを目標とする。子どもたち一人ひとりの個性を大切に、子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し、愛する心、祈る心、感謝する心を養い、お互いの気持ちを大切にできる子どもたちを育成する。

### 2, 本年度、重点的に取り組む目標・計画

のびのび元気に過ごし、自ら進んで自分でやってみる子ども

### 3, 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
<b>1, 宗教教育</b> 祈りとともに育つ。 ○友だちと一緒に活動する楽しさを味わう。 ○子どもはお祈りをしている。	<ul style="list-style-type: none"><li>・友だちを大切にすることを日々の実体験や視聴覚教材を使って知らせる。</li><li>・朝や帰りの祈りなど毎日取り組み、自分の言葉で共同祈願を考え、祈りの集いに参加した。</li></ul>
<b>2, 自主自立の保育</b> ○園生活を通して子どもは生活習慣が身についている。 ○子どもが主体的に活動しようとする意欲を育てる。	<ul style="list-style-type: none"><li>・個々の様子を観察し、子どもが自分でできるように一人ひとりの発達段階に応じた指導をした。</li><li>・じっくりと活動に取り組む時間を確保し、子どもの成長段階にあった教材を提供したことで、最後まで集中して取り組む姿勢が身に付き、達成感を味わう姿が見られた。</li></ul>
<b>3, 未就園児クラスの充実と満3歳児保育への移行</b> ○子育て支援について積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"><li>・未就園児クラスの保護者には子育てサポートを行い、満3歳児での入園時には保護者や子どもが安心して入園できるように導入保育を行う。</li><li>・満3歳児を受け入れることによって、世話をしたり優しく接する優しさが芽生えた。</li></ul>

<p><b>4, 英語教育を通して国際的関心を養う。</b> ○英語に親しみ, 楽しみながら学んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが積極的に外国語活動に取り組めるように, 教材の色彩やイラストなど視覚からも学べるようにしたことで, 子どもたちはごく自然に英語に慣れる環境となったようだ。</li> </ul>
<p><b>5, 教員は資質を向上させるため, 研鑽する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モンテッソーリ教育の園内研修を毎週行い, 学ぶ時間や練習の時間を設けた</li> <li>・毎日の職員終礼で, 子どもの様子を振り返り, 共有し, 教師としての観察力を高めている。</li> </ul>
<p><b>6, 保護者への対応</b> ○適切で正確な情報を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの日々の活動を観察し, 保護者集会や個人懇談で子どもの成長や日々のエピソードなどを報告し, 保護者との情報交換をできるようにした。</li> <li>・保護者からの相談があった場合には, 迅速に対応する。</li> </ul>

#### 4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>基本的な生活習慣の確立を目指し, 日々の保育内容を見直してカリキュラムを立て, 子どもが主体的に参加できるような行事を立案したことで, 子どもは自立し, 充実感を味わう姿が見られた。</p> <p>子ども一人ひとりをよく観察し, 保護者と連携を取り, それぞれの発達段階に即した個別の指導を行っていききたい。また, 教職員の研修の機会を積極的に設け, 教師の指導力向上に向けて自己研鑽していきたい。</p>
--

#### 5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自主自立の保育の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが興味をもち, 様々な活動に自主的に挑戦しようとする気持ちをさらに育てる。</li> <li>・個々の記録を取り, 子ども一人ひとりの成長に沿ったきめ細かい指導を行う。</li> </ul>
保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の幼稚園集会や, 預かり保育利用の保護者との面談の機会の仕方を検討する。</li> </ul>
体力の増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育専科の教員による指導を実施し, 運動遊びをさらに取り入れることで体を動かす機会を作る。</li> </ul>
宗教教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おつけものデーを通して世界の困っている人に目を向け, いたわりの気持ちをもつ。</li> <li>・創立者の「よいことは何でもしなさい」の言葉を受けて, 「私にできるよいこと」を考え, 実践する。</li> </ul>

## 6 学校関係者の評価

別紙の通り

## 7 学校会計について

公認会計士監査により、無限定適正意見が表明されている。

2019年度 自己評価の結果報告書

学校名：賢明学院小学校

評価責任者：校長 中原 道夫

2020年2月29日 報告

	Plan		Do	Check		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	宗教教育の実践	①祈りを通じて神への畏敬の念を養う。	①正しいお祈りの仕方の指導を徹底し、朝の放送でのお祈りや帰りの祈りを心静かにおこなう。また、ミサや祈りの集いでは、神様への畏敬の念が持てるよう継続して指導する。	①毎日のお祈りを大切にしている児童は、1・2年 97%、3・4年 86%、5・6年 76%であった。保護者の祈りや宗教教育に対する関心は高く 94%。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 86%	①日々の学校生活の中で、朝や帰りの祈りを正しく心静かに行えるよう、指導を徹底する。また、ミサや祈りの集いでは、高学年がミサや祈りの集いの準備に関わり、神様への畏敬の念が持てるように今後も指導する。
		②創立者について学び、帰属意識を高める。	②宗教の時間では、各学年でカリキュラムにそって系統的に理解を深める。祈りの集いやミサでは、建学の精神や創立者について話す機会を増やす。保護者会でも話す機会を設ける。	②宗教の時間や朝の放送、創立者の帰天ミサなど、創立者について聞く機会を設け、理解を深めたが、73%にとどまる。機会を増やしたが、理解するにはなかなか至らなかった。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 73%	②朝礼集会や創立者の帰天ミサなど、創立者を知る機会を設け理解を深める。宗教の授業では、創立者についての単元を明記し、系統的に理解を深めていく。クラスでも賢明学院ハンドブックを繰り返し有効に活用する。
		③感謝と奉仕の精神を培う取り組みをする。(行事の計画)	③日常の係活動や当番活動で、奉仕の心で取り組むことができるよう指導する。募金活動や施設訪問等で児童会やリヴィエジュニアの活動を活発にし、奉仕の精神を育てる。	③進んでよいことをする児童は、2・3・4年は 93%以上と多くの児童が奉仕を実践しているが、高学年の当番活動については、奉仕の心で取り組んでいる児童は少ない。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 89%	③募金活動や施設訪問等で活動している児童会やリヴィエジュニアだけではなく、クラスでの日常の係活動や当番活動を丁寧に取り組むことで、奉仕することの大切さを育てる。
		④式典や行事を通じて宗教心を体験として学ぶ。	④式典や行事ごとに高学年児童の役割を決め、意欲的に取り組めるよう指導する。	④ミサや集いを大切にしている児童は、1・2年は 94%だが、高学年になるにつれて取り組みなくなっている。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 83%	④日頃から、高学年児童が式典や行事に興味や関心を持ち、責任を持って役割を果たすことができるよう指導する。
2	安心できる学級の実現	①楽しい学校生活が送れるように支援している。	①毎日の朝の会・帰りの会の時間をきちんと確保し、落ち着いた雰囲気の中で実施する。	①朝の会・帰りの会で、今日あったトラブルは、その日のうちに早期解決を基本とした指導に取り組んだ。楽しく学校生活を送っていると回答した保護者は 97%。	◆目標到達度 95% ◆実際到達度 92%	①朝の会・帰りの会の時間をきちんと取り、今日起こったトラブルは、その日のうちに早期解決することを基本とし、児童が落ち着いて行動できる環境作りに、今後も努める。
		②いじめの撲滅を目指した生活指導を行い、全教職員で取り組む。	②日常から児童一人ひとりをよく理解し、毎月のいじめアンケートから児童の実態を把握し、児童間の問題に対して迅速に対応し指導する。問題は、全教職員で共有する。	②いじめアンケートの活用と早期発見に努め、全教職員が問題を共有し、迅速な対応と指導をすることができた。アンケートでは、97%の児童が学校生活は楽しいと答えている。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 92%	②毎月のいじめアンケート実施から、児童の実態把握に努め、他クラスの問題や取り組みも、全教職員で共有する。また、学級での些細な出来事を敏感に感じ取り、迅速に対応し指導する。
		③衛生的な配膳を行い、安全な給食を実現する。食に対する感謝の心を養うことができている。	③配膳の仕方を検討し、よりスピーディーになる工夫をする。また、食べ物を大切にできる態度、作ってくれた人への感謝する気持ちと残食を減らす指導をする。保護者へはアンケート調査を実施し、その結果を踏まえメニュー等を改善する。	③エプロン、マスクの着用、手の消毒を徹底した。配膳活動を通じて、食べ物を大切に扱う態度の指導には取り組めたが、作ってくれた人への感謝をする気持ちと残食を減らす指導は次年度の課題である。	◆目標到達度 80% ◆実際到達度	③給食当番の正しい身なりと手の消毒を徹底し、配膳活動を通じて食べ物を大切に扱う態度の指導は、継続して行う。好き嫌いをせずに残食を減らすように努め、調理してくれた方々への感謝の心を育む。

3	教師の指導力向上と授業改善	①国語・算数を中心とした授業の質が向上している。	①全教員が授業を1回以上公開して、教員同士が互いに授業力を高めることは、今後も継続しておこなう。次期指導要領に即した教材研究と授業改善に取り組む。	①児童に分かり易い授業作りについて100%の教員が努めている。先生の話が分かり易いと答えた児童は、1・2年93%、3・4年80%、5・6年77%。更に授業研究と授業改善に努め、授業力を高める。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 83%	①全教員が授業を1回以上公開して、教員同士が互いに授業力を高めることは、今後も継続しておこなう。国語と算数においては、新指導要領に即した教材研究と研究授業に取り組み、授業改善の方法とする。
		②宿題やノート指導など学習習慣の基礎を強化している。	②宿題の提出の仕方やノートの点検の仕方を教員同士が共有することは継続し、更に学習習慣の基礎が身につく指導を検討し、実施する。	②先生は、ノートや日記など丁寧に見ると答えた児童は83%、保護者94%。4年生以上の児童の評価が低いので、点検の方法を再度検討する。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 83%	②宿題の提出の仕方やノートの点検の仕方を、再度教員同士が共有することと学習習慣の基礎が身につく指導を検討することは、継続して実施する。
		③実用的英語の力を向上させる。	③今年度の取り組みの反省をもとに、英語のモジュール学習の内容や成果についてさらに検討し、英語の聞く・話す・書く・読む力のレベルアップを図る。	③英語で挨拶や簡単な会話ができると答えた児童は78%で、保護者の評価は77%であった。英語を使う機会を増やし、指導内容や方法を検討する。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 78%	③英語のモジュール学習の内容や成果について更に検討を加える。また、英語の聞く・話す・書く・読む力のレベルアップを図るために、評価の規準を明確にして指導する。
		④情報機器を活用し、効果的な授業が展開されている。	④タブレットを活用した授業の取り組みとプログラミング学習に対応した授業を実施する。	④教員の91%がタブレットを活用していると答えたが、タブレットを使った授業が分かり易いと答えた児童は、1・2年91%、3・4年89%、5・6年87%であった。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 89%	④タブレットを活用した学習への取り組みとプログラミング学習に対応した授業の展開を更に進める。
		⑤新指導要領に対応したカリキュラムを確認しながら授業を行い、目標の達成に努めている。	⑤2020年度の次期指導要領改訂に準じ、今年度のカリキュラムの反省を活かし、更に各教科とも目標の達成を目指した授業づくりができるよう校内研修を積極的におこなう。	⑤次期指導要領に関して情報を集め、理解に努めている教員は95%。新カリキュラムでの授業と校内研修に取り組むことができたので、今後も継続して取り組む。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 95%	⑤新指導要領に沿った授業実践と各教科とも目標の達成を目指した授業づくりをおこなう。また、校内研修を意欲的に取り組み、外部研修にも積極的に参加し、さらに研鑽を積む。
		⑥児童自ら考え発言し、分かり易い言葉で伝え合うことができる授業を行う。	⑥自己と他者を認め、児童が失敗をしたり、間違えたりする発言があっても、互いに支えあう学級づくりに努める。	⑥自分の意見を進んで発表している児童は全体で64%とかなり低い結果となった。今後の指導を検討することが必要。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 64%	⑥児童が進んで意見を発表し、互いに学び合う授業ができるように指導する。また、互いを認め合い、支えあう学級づくりに努める。
		⑦学級経営力向上のため、整理・整頓と朝の会・帰りの会の二点について指導力を高める。	⑦日頃から整理・整頓の指導に努め、朝の会・帰りの会については、時間の確保と内容が充実できるよう取り組む。	⑦身のまわりの整理整頓をしていると答えた児童は81%。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 81%	⑦日頃から、靴箱と傘立て、机やロッカーの持ち物の整理整頓に心がけるよう意識させる。朝の会・帰りの会の内容は、時間の確保をして充実できるように指導する。
4	生活指導 「自主」「自立」「自律」をめざした生活 ＜基本的習慣を特に充実させる＞	①立ち止まって挨拶することを指導する。	①朝や帰る時だけではなく、いつでもどこでも挨拶ができるよう指導する。児童会活動で挨拶運動が展開できるような取り組みをおこなう。	①賢明の挨拶ができている児童は、1～4年93%、5・6年79%。今後も継続して100%をめざす指導をおこなう。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 89%	①立ち止まって行う「賢明の挨拶」を徹底する。児童会でも挨拶運動を展開し、挨拶への意識を高める。今後は、いつでも、どこでも、誰にでも挨拶できるように指導する。
		②集団での移動は、沈黙で移動することを指導する。	②教室からの移動時には、静かに並び静かに移動することを徹底して指導する。「生活のきまり」(仮称)を新たに作成し、生活のルールを徹底させる。	②賢明の沈黙移動ができている児童は、1・2年79%、3・4年69%、5・6年45%。静かに並び静かに教室移動することの意味と大切さを普段から徹底させる。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 65%	②沈黙移動を実現するには、担任の指導によるところが大きいので、再度、教員間で指導方法を共有し、全学年で指導する。賢明学院ハンドブックの活用で児童にも意識させる。
		③通学の安全とマナーについて指導する。児童がマナーとルールを守って登下校できるように指導する。	③児童自身が交通安全を意識したり、公共交通機関利用の仕方について理解を深めたり、学級や集会での指導の工夫を検討する。「賢明学院ハンドブック」を新たに作成し、生活のルールを徹底させる。	③安全に気を付け、マナーを守って登下校できている児童は、1・2年89%、3・4年93%、5・6年76%。賢明学院ハンドブックの有効な活用も考える。	◆目標到達度 90% ◆実際到達度 86%	③下校の安全やマナーについて、クラスだけではなく、全校朝礼や学年集会等でも繰り返し指導する。特に低学年は、生活のルールが徹底できるよう、賢明学院ハンドブックを用いて指導する。

2019年度 自己評価の結果の報告書

学 校 名：賢明学院中学高等学校

評価責任者：校長 大原 正義

	P l a n		Do	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で「宗教教育」を進める。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	①宗教行事の事前学習を宗教の授業だけでなく、教員全体がその意義を理解し伝える。 ②人間関係が薄まる中、行事や共同作業などでその絆を深めるよう指導する。 ③自分中心の発想は、最終的に自分も幸福にしないことを教えていく。 ④クラスだけでなく、クラブでの生徒間の問題を早期に発見し解決していく。	①全体で95%と目標を達成することができたが、中でも中3は100%を達成することができた。 ②全体で90%と年々向上し、昨年より2P(ポイント)向上した。学年では中3が92%、高2が94%と高かった。 ③昨年と比べ6Pも向上し、大きく改善できた。昨年一番低かった中3は高校で生徒も増え12P向上して86%となった。 ④全体で91%と3P向上し、中でも中3が97%と高い数字となった。この4項目は90%を超えることができた。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③90% ④95%  ◆実際到達度 ①95% ②90% ③90% ④91%	①各学年の保護者集会で精神や方針に関わる話を必ずしていく。 ②日頃から生徒との人間関係を作り、行事や作業などでその絆を深めるようにする。 ③やさしさや思いやりを持つことで学校生活が楽しいものになることを教えていく。 ④クラスだけでなく、クラブでの生徒間の小さな問題を早期に発見し解決していく。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①生徒は気持ちよい挨拶が誰にでもできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	①生徒会だけでなく、クラス単位での登校時の挨拶運動に取り組む。 ②教員だけでなく生徒の中からルールを守るよう発信する機会を増やしていく。 ③自律する生徒を育てることを意識しながら、学年間クラス間の指導が統一できるよう確認していく。	①保護者の評価が残念ながら3P下がり85%になった。特に高校は82%と低い数字になった。 ②生徒自身の評価は87%と目標を超えた。この項目でも中3が97%と高く、学校生活の満足度とつながっている。 ③保護者の評価は85%と微増、昨年のような学年のばらつきは少なかった。教員自身の評価は授業中の指導は大変高いものだったが、学校生活全般では大きく下がった。	◆目標到達度 ①95% ②85% ③90% ◆実際到達度 ①85% ②87% ③85%	①生徒会だけでなく、クラス単位での登校時の挨拶運動に取り組む。 ②生徒自身がルールやマナーを守る大切さに気付く機会を増やしていく。 ③教員自身が生徒の模範となるように自らの行動を意識しながら、統一して生徒の指導に当たる。
3	学習における授業を第一とし、教科指導力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①チャイムとともに授業が始まり、生徒が授業に集中している。 ②分かりやすい授業のための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	①集中していない生徒を学習に向かわせるようにしてから授業を始める。 ②公開授業週間に管理職だけでなくお互い参観をして、反省会を持って授業の振り返りをする。 ③すでに「主体的・対話的で深い学び」を実践している授業を参観し、具体的な取り組みを自分の授業に取り入れていく。	①生徒の評価が10Pアップと大きく改善され95%、昨年100%だった教員の自己評価は少し下がったが、やっと徹底できた。 ②プリントなど教材に対する生徒の評価は95%と例年よりずいぶん高くなっている。教員も同じ項目では96%と昨年より10P向上した。 ③「主体的・対話的で深い学び」に対する生徒の評価は83%と13Pも増えた。中でも中2は92%と高い数字になった。教員自身は96%と飛躍的に伸び、様々な取り組みがなされている。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③80% ◆実際到達度 ①97% ②95% ③90%	①チャイムと共に生徒が集中して学習に向かうのが当たり前の状況を続けていく。 ②授業公開の新しい動きが出ているので、それを掛け声だけで終わらせず、お互い参観をして授業の向上を目指す。 ③「主体的・対話的で深い学び」を実践している授業を参観しあい、さらに工夫をして全員が取り組む。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②授業が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	①学年全体に対してだけでなくクラス単位でも進路の説明などをして、生徒が主体的に進路を考える環境を作る。 ②高3のカリキュラムを工夫して、大学受験に直結する科目の時間を増やし、実力を伸ばすよう指導する。 ③様々な受験制度を利用しながら、生徒の進路実現をサポートしていく。	①生徒たち自身が進路を考える機会があるかは88%と9P伸びた。特に高校では93%と例年の80%前後と比べて大きく向上し、体系的な指導ができつつある。 ②これも全体が90%と8P上がった。昨年低かった高3も88%になった。また、学年が高校入試の指導をしっかりとしたこともあり、中3では100%だった ③新入試への過渡期と言うこともあって、国公立、難関私学とも大変厳しい結果となった。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③国公立15名など ◆実際到達度 ①88% ②90% ③国公立4名	①全体に対してだけでなくクラス単位で進路の説明などをして、生徒が積極的に進路を考える環境を作る。 ②学年間のばらつきが少なくなったので、さらにそれををなくすためにも、教科担当者が協力して生徒の学力の向上を目指す。 ③新入試初年度としての的確な情報を集め、生徒たちの不安を解消しながら指導する。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人で対応するのではなく、チームで対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができています	①「kenmei.info」システムを導入し、保護者との連絡を緊密にする。 ②管理職、学年団、スクールカウンセラーなどが緊密な連絡を取り合い、問題に対処する。 ③小さな意見の対立があったとしても教員が同じ方向へ向かい、協力して問題の解決を図る。	①保護者が学校からの連絡が確実にされているかは86%と微増。中2中3教員自身は98%だが、学年ではばらつきがあった。 ②保護者からの相談についての対応は90%と昨年と同じだったが、今年も高校が中学より9P低く対応に差が出てしまった。ここでも中2中3は高い評価で、中2は100%だった。 ③教員同士の協力という点で生徒の評価は83%と10P増えたが、まだ、厳しい目で見られている。学年によって差ができているのは、改善していかなければならない。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③80% ◆実際到達度 ①86% ②90% ③83%	①その日に伝えることはその日に電話することを徹底させ、保護者との連絡を密にする。 ②引き続き、管理職、学年団、顧問団、スクールカウンセラーなどが緊密な連絡を取り合い、問題に対処する。 ③学年係を含めた学年団が意思の疎通を図り、まとまった姿を生徒たちに見せていき、協力して問題の解決を図る。
6	生徒を大切にすこまやかで温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	①「いじめアンケート」だけでなく、生徒の小さな変化に気付きすぐに対応する。 ②言葉遣いの改善を毎日の生活でもっと意識し、生徒の模範となるよう努める。 ③不登校の生徒が出ないように暖かく見守り、生徒が安心感を持つようにする。	①良い友人関係を築いているかの評価は94%と増えた。今年は高2高3が96%と高かった。 ②教員が自らの言葉遣いを評価すると76%と大きく落ち込み、意識の改革が必要である。 ③居場所があるかは93%で微増。今年は高校の方がわずかではあるが数値が高かった。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③95% ◆実際到達度 ①94% ②76% ③93%	①うまく人間関係を築けない生徒をサポートし、全員が笑顔で学校生活できるようにする。 ②言葉遣いの改善を毎日の生活でもっと意識し、お互い注意し合う。 ③学校に来れない生徒が出ないように担任中心に暖かく見守り、サポートしていく。
7	生徒会活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒はクラブ活動・委員会活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③クラブ指導が活発で、生徒も生き生きとしている。	①秋麗祭、クリスマスタブローなどの行事を、さらに生徒主導で作りに上げていく。 ②教会典禮の待降節、四旬節に合わせて、その精神を理解した上で、ボランティア活動が実践できるよう指導していく。 ③クラブの規定を見直し、練習時間の制限などを明記し、活発なクラブがより生き生きと活動できるよう工夫していく。	①生徒自身の評価は93%と7P増えた。中でも中1が98%、中2が100%で過去にはない数字となった。 ②76%と昨年と同じだったが、他の項目が向上しているだけにカトリック学校としてボランティア活動の取り組みは今後考えていかなければならない。 ③クラブ活動に対する保護者の評価は79%で3年間同じ数値であった。昨年、クラブ活動の中心になるはずの高2が最も低い数字だったが、それは80%と改善した。	◆目標到達度 ①95% ②85% ③90% ◆実際到達度 ①93% ②76% ③79%	①行事における達成感を高めるために、さらに生徒主導で作りに上げていく。 ②実践的なボランティア活動を教員が提供するところから始めていき、生徒たちの自発的なボランティア活動につなげる。 ③週5日制になるので再度クラブの規定を見直し、活発なクラブがより生き生きと活動できるよう工夫していく。
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組み実践する。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、授業が進化している。 ③学院全体の教育が系統的に行われている。	①教務進路連絡会議が中心となり本格的に議論し、準備を進める。 ②ICT活用教育だけでなく、授業の形態をより良いものにする研究を個人や教科でも進め、実践していく。 ③英語と宗教(道徳)の指導が系統的に行われるよう、カリキュラム作りをする。	①教員自身が教育制度の改革に取り組む姿勢の評価は91%と急上昇、時期が迫り積極的な姿勢が見られる。 ②授業の内容を改善しているという教員の評価は100%が続いたが、今年は96%と下がった。全員が改善に取り組むのは当然なので、再度100%を目指していく。 ③幼少の連携に比べ小中の連携は、教育としての具体的な内容がなかった。	◆目標到達度 ①90% ②95% ◆実際到達度 ①91% ②96%	①教務進路連絡会議が中心となり具体的な方策を示し、準備を進める。 ②授業の形を大きく変えて進化させることに全員で取り組み、新しい形を協力して作り出していく。 ③英語と宗教(道徳)の指導が系統的に行われるよう、カリキュラム作りをする。



	P l a n		Do	C h e c k		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で進める「宗教教育」。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	個別懇談・三者懇談を計画的に行う。個別に指導が必要な生徒や保護者については火曜日を有効的に活用して面談を行うことにより、教育活動の理解を深める。また、懇談の内容については教職員間で情報を共有し指導に繋げる。宗教行事については、全日制の宗教部と協力し事前に資料などを生徒に配布することにより参加を促す。	肯定的評価が 82%であった。建学の精神や教育方針などおおむね理解しており、個別面談、三者懇談など定期的に行った。 ①28%②46%肯定的評価が 74%であった。今後も教員と生徒が対話しやすい雰囲気づくりを心掛ける。 ①21%②62%肯定的評価が 83%であった。各行事などを通じて、思いやりを持った生徒を育てる機会を増やす。 肯定的評価が 78%であった。学習サポートや特別活動を充実させ、学校生活の満足度を上げていく必要がある。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ④90% ◆実際到達度 ①82% ②74% ③83% ④78%	個別懇談・三者懇談を計画的に行い教育活動の理解を深める 生活指導や進路指導などの情報については定期的に情報を配信する。(各分掌ごとの進路指導日よりなど) 学習サポートについては出席率を向上させるために出席目標を設定し、参加することで学力が向上させ進路結果へ繋げる。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①賢明の生徒は挨拶が良くできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	月に2回のLHRを設定し、担任を中心に生徒指導面について統一した指導を計画的に行う。 外部講師を招き、SNS や命の大切さなどの講演会を実施する。 兼務の先生に生徒の情報を共有する場を設け、生徒との信頼関係構築のきっかけづくりを行う。	①25%②51%肯定的評価が 77%であった。スクーリングは多くの生徒が登校するので教員から挨拶していくよう努める。 肯定的評価が 72%であり、おおむね生徒指導面について理解しているが、日頃から統一した対応をしていく必要を感じる。 ①25%②57%であり肯定的評価が 82%であった。昨年は68%であった。少しずつではあるが生徒の意識や生活態度の向上が見られた。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①77% ②72% ③82%	個々の生徒の考え方や感じ方が異なっているも、受容し生徒が心を開くよう指導する。 生徒の行動を理解するために入学前からの情報を活用し、家庭の事情や本人の体調なども考慮する。 人間関係による影響を理解し、見方、接し方、感情を敏感に感じとるよう心掛ける。
3	学習・授業を第一とし、教科力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①開始時刻とともにスクーリングが始まり、授業に集中している。 ②分かりやすいスクーリングのための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	学習進度表を計画的に配布し、生徒の学習状況についての理解を促す。 3年間の進路指導計画を行い、各学年ごとの進路希望調査を計画的に実施し、生徒一人ひとりの希望進路の実現を目指す。 英語検定の受験者数をさらに増やし、英語検定2級合格者を複数輩出する。	①53%②35%であり肯定的評価が 88%であった。スクーリングは単位修得の重要な項目のためさらなる向上を目指す。 スクーリングの内容については生徒の理解度を図るとともに、学力の向上につながるよう検討したい。 学習進度表を定期的に配布し、意欲的に学習に取り組んでいる。学習サポートを通じて学習意欲を向上させ、生徒の進路決定へと繋げたい。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①88% ②74% ③73%	スクーリングを通じて、生徒自身が努力するように指導方法を改善する。 外部の進路相談会などの参加機会を計画し、進路について検討させ目標設定が明確になるようシートを作成する。 英語検定の受験者数を増やし、上位級の合格生徒を輩出する。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②学習活動が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	学年別および外部講師を招いての進路説明会を実施し、高校卒業後の進路について明確な目標を設定し、学校生活へと結びつける。 進路希望調査やアンケートなどを計画的に実施し、自分の将来を描くことのできる生徒を育てる。	スクーリングレポートなどが進路決定に結びつくものであるための内容の検討が必要。 進路の意識を高めるための説明会などを複数回実施したが、特定の生徒のみの参加となる。多くの生徒の参加を促す。 難関私大に合格するなど、通信制での日頃の学習が進路結果へ結びついた。今後、この例を引き継いでいく必要がある	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①65% ②50% ③78%	通信制課程の進路結果について、生徒の進路希望と決定および進路選択の要因を分析する。 卒業生の状況報告会（ホームカミングデイ）を充実させて、在校生の意識を変え、個に応じた進路実現ができるよう意識を高める。
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人で対応するのではなく、教職員全員で対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができている	生徒状況報告会を引き続き継続し、教職員間における生徒理解を深める。 生徒、保護者への連絡については配布プリントの受け取り確認や懇談の実施状況など管理職を中心に情報を共有する。	肯定的評価が 90%であり、昨年を上回っている。保護者と教職員同士で連携し生徒指導の理解を深めていく。 生徒指導面については、指導方法や事例報告などの話し合いを通じて共通理解していく必要がある。 肯定的評価が 90%であり、昨年は96%であった。学院全体での統一した指導を継続していきたい。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①90% ②67% ③90%	新入学・転入学生については生徒・保護者の理解を深めるための面談結果を全教員が理解できるよう新たな生徒情報シートを作成する。 担任と保護者との連携に加えてkenmei.infoは入学時に必ず登録させて綿密な連携を図り情報を共有する。

	P l a n		Do	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
6	生徒を大切にすこまやかで温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	入学前の、個別相談、入試相談、入学試験面接を通じ本人と保護者の理解に努める。 また、入学後についてもオリエンテーションを通じてここに応じた指導を行う。 生徒にとって過ごしやすい教室やフリースペースの充実を図る。 一人ひとりの生徒に声掛け運動を実施する。	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価 様々な事情を抱える生徒が多く入学するようになった。生徒の細かな変化などに気づき、指導していく必要がある。 肯定的評価が69%でありやや低い。生徒との信頼関係を構築していくため、生徒の環境や背景などの理解に努めたい。 昨年は88%であり減少している。様々な課題を持つ生徒がいることを踏まえ90%以上の結果を残せるよう教職員の連携が必要である。また、生徒指導において特定の生徒のみになっていないかのチェックが必要である。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①82% ②69% ③79%	入学前の個別相談・入試相談などを通じて生徒の家庭環境や学習状況などを理解する。 面談にて得た情報については、教職員同士で共通理解を深めるために個別相談シートを改良する。 生徒の居場所づくりのために、教室などの環境の充実と生徒の内面を理解するための個別面談を行う。
7	特別活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒は特別活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③特別活動が活発で、生徒も生き生きとしている。	特別活動については、さらに内容を検討し生徒の自己肯定感を高める活動を行う。進路・キャリア・コミュニケーションをテーマに活動内容を改め、現在の活動に加えて大学訪問や職業体験も企画する。 ボランティア活動については学外の活動を実施し、他者に目を向ける機会とする。	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価 内容の充実を図ったが、特定の生徒が参加する傾向がみられた。また、受験を控える3年生の参加者数が減少した。 入学式・卒業式・学校説明会などのお手伝い生徒の参加の偏りがある。 肯定的評価が98%であり引き続き高い評価となった。学校行事の内容についての生徒満足度は100%だった。振り返りシートを大幅に変更した結果でもあると考える。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①64% ②41% ③98%	特別活動においては、学年別の出席率や生徒の満足度などを分析する。 大学や専門学校訪問に加えて、職場訪問なども実施し、特別活動が学習活動の要となるようキャリア教育の視点としても活用できるような特別活動を実施する。 特別活動の参加率を向上させるための、事前指導や申込みについての改善を行う。
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組んでいく。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、スクーリングや進路指導が進化している。 ③学院全体の教育が系統的に行われている。	学習指導要領については各部会への積極的な参加や全日制の対応を把握し、通信制課程でも活用する。 通信制校長会・通信制実務者会議などを通じて、通信制課程における学習指導要領の現状を把握し、教職員間の情報を共有する。 今後、多くの卒業生を輩出することから社会に求められる通信制の在り方を検討し、在籍している生徒に教育実践していく。	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価 新学習指導要領などの方向性から教育課程や学習指導における見直しを行い、次年度に向けて準備をしていく。 日ごろのスクーリングの内容について見直しが必要である。生徒にとってスクーリングは限られた時間であるからこそ、外部の研修会に参加するなどの研究が必要である。 通信制課程を卒業した生徒が社会でどのような活躍をしているかなどの追跡が必要である。また、卒業後に必要な力とは何かを検討し、在籍している生徒に指導・実践していく必要がある。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①75%②60% ③72%	各分掌・教科などの研修会で得た知識・技術を共通理解できるよう各部会別の学内研修発表を行う。 通信制課程教育研修会や合同相談会などを通じて、他の通信制高校との関係性を深め賢明学院としての独自の教育を展開する。 社会に求められる通信制高校であるために、生徒指導意識や進路指導意識を高めるよう教職員全員で取り組む。

## 2019年度 学校法人賢明学院 学校関係者評価の結果の報告書

委員名	小上 廣之	嶋田 豪洋	藤木 利典	久保 善見	長谷川 幸則
実施日	第1回 5月25日(土)	第2回 8月31日(土)	第3回 2月29日(土)	学校関係者評価提出日 4月30日(木)	

	重点目標について	目標達成の為の取組について	到達度及び自己診断結果について	今後の改善方策について
幼稚園	宗教教育における「おつけものデー」の位置づけが理解し辛い。	未就園児クラスについて、季節を感じられるような制作・保育カリキュラムが子どもが園に親しみを感じ、楽しむことにつながるのか、説明が必要である。	「支援しているもう一人の友達」について、補足説明が必要である。 クリスマスとおつけものデーの関係が、目標と評価の関係として適切かどうか不明なので、関係を明確にするか、評価項目を変更するべきである。	「反省を活かして」とあるが、反省に何を反省したかを明らかにしなければ、改善方法を見いだせない。
小学校	「学級経営力向上のため、整理整頓」について、それが学級経営力向上につながる事例を明示されたい。	賢明学院の英語教育はかなり充実しているの、「取り組みの反省」については具体的にふれる方が、保護者への説明という意味においても、広報という意味においてもプラスに作用するだろう。	挨拶については、達成度100%を目指して頂きたい。まずは大人が100%を達成することが大切だろう。	「式典や行事を通じて宗教心を体験して学ぶ」ことについては、高学年への指導を見直さなければ、下級生への影響が心配される。
中高	自主的な活動の場は、生徒会活動だけでなく、クラブ活動等も該当する。評価指標の範囲が狭いのでは？	「自分中心の発想」という表現が、賢明学院の生徒の実態やイメージに合わないの、変更すべき。	生徒たちが進路を考える機会が広がったと評価していることは素晴らしい。何が功を奏したのか記載してほしい。通信制課程から難関大学への合格は、本人と教員の努力の成果であり、大変喜ばしい。	感染症対策として、授業公開をオンデマンド化すれば、時間の制約を受けない。
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部外者にとって分かりにくい「業界用語」は使用すべきではない。</li> <li>・PDCAの横のつながり、特にP(プラン)に対するC(チェック)の関係性が微妙なものがあるので、明確な評価項目を設定すべきである。</li> <li>・紙面のボリュームのPDCA関係上記載できない内容は、別紙に記載して掲載することで、いっそう充実した学校評価の結果報告書となる。</li> </ul>			